

令和8年度 第1回
みんなの森 ぎふメディアコスモス運営委員会 会議録

日時：令和8年6月5日（金） 14：00～16：00

場所：みんなの森 ぎふメディアコスモス 第一会議室

出席委員：10名 デュアー委員、市來委員、岩佐委員、蒲委員、川島委員、鈴木委員、
高橋委員、田代委員、出村委員、藤本委員
(欠席委員：北村委員、松枝委員)

傍聴者：なし

<議事概要>

1. 令和8年度の運営状況と今後の予定について

(委員からの意見)

- ・外国人住民の増加に伴い、ごみ出しルール等をめぐる地域課題が今後顕在化する可能性がある。特に自治会単位では外国人住民の実態が見えにくく、多文化交流プラザと市民活動交流センターが地域課題をつなぐ役割を果たす必要がある。
- ・国勢調査等の詳細データを活用し、外国人住民が多い地域を把握したうえで、問題が起きそうな地域に早めに支援を行うことが望ましい。
- ・技能実習生については、企業内部で情報が止まり、自治体や自治会に必要な情報が届きにくい構造がある。市が企業担当者にアクセスできる仕組みを工夫する必要がある。
- ・外国人住民が来庁・登録するタイミングは、生活ルール等の情報提供の機会として重要である。また、企業や学校、外国人コミュニティ内の世話役などを通じた情報伝達も有効である。
- ・外国人住民も地域でトラブルを起こしたわけではなく、ルールを知らないことが問題である。地域の中で世話をする人や支援者との接点を増やし、ネットワークよく対応することが必要である。
- ・ごみ出しルール等の情報は紙で配布されることが多く、自治会加入者にしか届かない場合がある。自治会未加入者や新たに転入した人にも情報が届く仕組みが必要である。
- ・岐阜市には、外国人が母国語で相談・交流できる場が不足している。国際交流プラザに来る人だけでなく、情報を持たない外国人が「とりあえず行けば分かる」と思える場をつくる必要がある。
- ・外国人の研修生・実習生を受け入れる企業には、従業員が安心して暮らし、地域住民も安心できるようにする責任がある。また、賃貸住宅における地域ルールの周知については、不動産所有者や管理会社の役割も整理して考える必要がある。
- ・多文化交流プラザや国際課は多くの取組を行っているが、メディアコスモスの複合文化施設の中で、他の課との横断的な連携が重要である。
- ・メディアコスモスが今の部に移管された以降、市立図書館と小中学校図書館との連携や、義務教育への貢献が見えにくくなっている。
- ・メディアコスモスで行われている先進的な図書館の取組が、小中学校図書館にも波及し、成果として報告されるようになるとよい。

- ・学校図書館は、開館時間や運営体制の面で十分に機能していないところがある。子どもが利用しやすく、居場所にもなるような工夫が必要である。
- ・学校図書館は、不登校や教室に入りづらい子どもたちにとって安心できる居場所にもなり得る。子どもが過ごしやすい空間づくりの余地がある。
- ・子どもの学校生活では自由に動ける時間が限られており、図書館を利用しやすい学校環境そのものを考える必要がある。

2. ぎふメディアコスモス分館整備検討部会の設置について

全出席委員の承認により、検討部会の設置を決定。

運営委員会委員長が、検討部会に高橋委員、出村委員、川島委員の3名を指名。全出席委員がこれを了承。

(委員意見)

- ・分館整備にあたっては、現行機能を単に維持するのではなく、既存機能を統合・再編し、新しい価値を生み出す提案が望ましい。
- ・メディアコスモスの「メディア」は情報という意味だけでなく、何かと何かを媒介するものとして広く捉えるべきである。分館は、人との出会いや交流を生む場として考える必要がある。
- ・ハートフルスクエアGには体育施設もあり、普段出会わない人同士が交流できる可能性がある。体を動かすことや遊ぶという意味の「メンテナンス」の場としての機能も考えられる。
- ・分館は、既存のメディアコスモスの出先機関のように考えるのではなく、駅での滞在を増やすことや、駅周辺に新しい価値を生むことを重視すべきである。
- ・岐阜駅の下という立地を踏まえ、駅利用者をいかに分館へ呼び込むかが重要である。特に駅の東側への人の流れを生み出す工夫が必要である。
- ・中高生、大学生、ビジネスパーソン、子育て世代など、駅を利用する多様な層を呼び込む仕組みが必要である。
- ・分館で簡易的なイベントを行い、より本格的な活動はメディアコスモス本館につなげるなど、本館との動線を意識した仕組みがあるとよい。
- ・ハートフルスクエアGはかつて多くの人を集めていたが、時間の経過とともに集客力が低下している。駅立地の利便性を再評価し、現代に合った役割を持たせる必要がある。
- ・駅前には日本語学校が多く、外国人学生が集まっているが、岐阜で働く・滞在する動機が弱く、通過点になっている。分館が交流や情報提供の拠点になれば、外国人を岐阜につなぎとめる入口になり得る。
- ・岐阜駅周辺には、大学等へ通う学生が多く通過しているが、滞在する場所が少ない。バス待ちや帰宅前の時間を過ごせる魅力あるコンテンツが必要である。
- ・現在の駅図書館には暗い印象があり、天井の低さや廊下の暗さから入りにくさを感じる。分館整備では、メディアコスモスらしい明るく、おしゃれで気分が上がる空間にしてほしい。
- ・図書館というイメージだけではなく、メディアコスモスと同じように一人でも大勢でも居られる場所、本に親しめる場所、子どもも大人も楽しめる場所として整備してほしい。
- ・昼は子どもがにぎやかに過ごし、夜は大人が落ち着いて利用できるような、安全で安心できる

場が望ましい。

- ・メディアコスモスは英語サインが十分でない面もあり、分館では最初から外国語のサインを整備するとよい。
- ・メディアコスモス本館の会議室は、貸館需要が高い。分館にも一定規模の貸館機能があつてよい。
- ・メディアコスモス本館の活動や講演会、ワークショップなどは本館に偏りがちであり、分館などにも恩恵が届くようにする必要がある。
- ・駅近くの不動産価値が高い場所を行政が占有する以上、それに見合う内容・価値を持つ事業であるかが重要な判断基準となる。
- ・中途半端な整備では、民間に貸した方がよいという議論になりかねない。商業的価値の高い場所であることを前提に、文化的・行政的意義を説明できる計画にする必要がある。
- ・最近の文化施設の運営は効率化や収益性を求められるが、岐阜市が駅周辺の文化的拠点に投資し、リニューアルしようとしていることは評価できる。

3. その他

事務局よりメディコス公式マスコットキャラクター「モーリー」のカート作成および今後の活用について報告。